

第1回 国際コンテナ戦略港湾検討委員会
議事概要

日時：平成21年12月15日（火）10：00～11：40
場所：中央合同庁舎3号館 8階国際会議室

○冒頭、委員互選により、黒田勝彦委員が座長に選出された。

○各委員からは、下記のような意見があった。

- ・釜山やシンガポールのような「国際ハブ港湾」を目指すのか。まずは、国内フィーダーを充実させて日本国内の貨物を集荷する「国内ハブ港湾」を目指すべきではないか。方向性をはっきりさせる必要がある。
- ・一定以上の貨物が集積する「特急が停まる駅」（基幹航路の寄港先）として選ばれる港を目指すべき。ボリュームが大切。
- ・我が国の港湾には産業集積型の港湾と貨物集荷型の港湾があるのではないか。釜山新港の整備により、特に貨物集荷型の港湾がより影響を受けることから、いずれの港湾に選択・集中すべきかは自明であり、そもそも公募する必要はないのではないか。
- ・そもそも「選択」が必要なのか。3つのスーパー中枢港湾への支援を充実させるべきでないか。
- ・10年前とは、我が国経済やコンテナ物流を巡る環境が大きく違う。我が国に、基幹航路の船社が来なくなる可能性があるとの危機意識が必要。
- ・釜山新港の整備を踏まえれば時間的余裕はない。内航フィーダー強化等集荷のための施策の集中を急ぐべき。国の関与が必要。
- ・港湾の経営や、貨物の集荷について、誰が主体的に行うのかをはっきりさせるべき。民によるコンテナ港湾の一元的経営もひとつの方法。一方、港湾は公的財であり単純な「民」

への付託はふさわしくない。モニタリングや公的関与も必要。

- ・ 20～30年先の長期的視点に立った世界経済の動向を見据えた議論も必要。

○次回以降、頂いたご意見を踏まえ、議論を深めていくこととなった。

以上